

【ケース１】生産性向上

<課題>

24時間体制で運転者の点呼業務を行う必要があり、特に深夜・早朝、休日の点呼において運行管理者等の負担が大きい。

点呼記録を紙で管理しているため、記録漏れを防ぐための確認作業が非効率的である。

<補助金の活用例>

自動点呼システムを導入することにより、対面点呼で発生するリスクのある人的ミスや記録漏れを防止し、点呼業務の高度化を図る。

また、システムに蓄積されたデータを分析することで、運転者の傾向把握、安全教育の質向上など業務品質の改善が期待できる。

さらに、記録作成・保管等の事務作業を自動化することで、管理部門の負担を大幅に削減する。

【ケース２】生産性向上

<課題>

広域輸送を行う事業者において、冬季は積雪地域を走行する機会が多いが、積雪路の走行性能が十分ではないタイヤを使用している。

速度低下や待機時間の増加が発生し、輸送効率が低下している。



<補助金の活用例>

低転がり抵抗と高い冰雪路性能を両立した高性能スタッドレスタイヤを導入し、冬季の輸送効率向上や燃費改善による燃料費削減につなげる。

さらに、安定した走行性能により、荷役位置へのアプローチがスムーズになり、迅速な積卸し作業を可能にする。

これにより、冬季における輸送遅延の抑制・ドライバーの負担軽減・燃料費削減を図る。

【ケース３】新事業展開

<課題>

降雪により、冬季の輸送業務の稼働率が低下し、売上が不安定である。

また、車両や人員の一部が遊休状態となり、生産性が低下している。



<補助金の活用例>

既存の運送事業で保有する人材・顧客基盤を活用し、新たに除雪サービス事業を立ち上げることに
より、季節変動の平準化と付加価値額の向上を図る。

除雪機械を導入し、冬季に稼働が低下するドライバーを除雪業務に配置転換することで、年間を通じた人材稼働率を向上させる。